

## 令和7年度 ふるさと未来講座「自然科学」福井③

### 小麦の地産地消を実現した『ふくこむぎ』

日 時:12月20日(土)14:00~15:30

講 師:福井県立大学 生物資源学部 創造農学科 教授

村井 耕二 氏

会場:福井県生活学習館(ユー・アイ ふくい) 学習室101・102



福井で生まれた「ふくこむぎ」は、耐寒雪性と早生性の両方の特性を持つ小麦です。その「ふくこむぎ」を開発した村井先生が、耐寒雪性を「ナンブコムギ」から、早生性を「ニシカゼコムギ」から受け継ぐよう交雑をし、栽培試験や品質調査などを経て、品種登録にまで至ったことを、多くのデータや写真を示しながら説明されました。また、県内各地で大規模栽培が始まったり、次第に「ふくこむぎ」を使った食品をつくる事業者が増えていったりするなどして、県内に「ふくこむぎ」が普及していていることも話してくださいました。県内では、過去、ほとんど栽培していなかった小麦ですが、今では年間約300トンもの生産量があるそうです。

講座の後半は、「ふくこむぎ」を使って作られたシフォンケーキを食べながらの質疑応答の時間でした。しっとりとしたシフォンケーキを味わいつつ、受講者の方々はご自身の仕事や興味・関心のある分野に関連してより詳しく知りたいことを、村井先生に熱心に尋ねていらっしゃいました。

受講後のアンケートには、「ふくこむぎを使ってみたい」「福井県で小麦が生産されていることを初めて知った」「米と併せて小麦も生産していくと良い」などの感想が寄せられました。